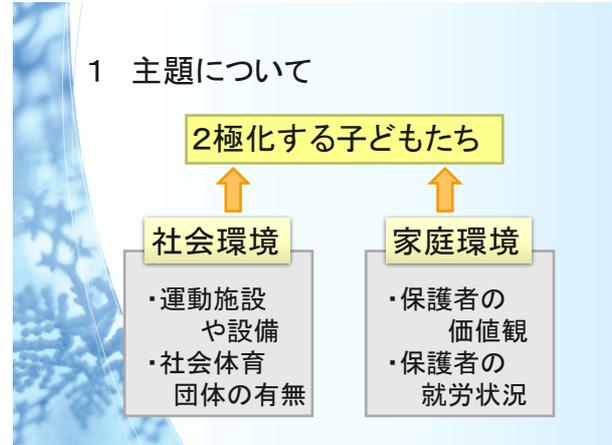


研究主題

身体がうごく みんなでうごく 心がうごく体育学習

—子どもの姿と意識の見取りから舵を取る—

吉野川市立牛島小学校



吉野川市の取り組み

○「やってみる・ひろげる・ふかめる」の3つのフレームを大切に授業づくり

○子どもの意識を大切にしつつその流れをコントロールするための見取りや舵取りについて研究

↓
子どもたちの変容

「浮く」「水中でバランスをとる」などの動きおもしろさを実感することで運動への意欲を高める

自分の能力に応じためあてを適切に選択し、仲間と情報交換しながら技能を順次獲得する

新たに見つけた課題

- 効果的な見取りや舵取りができないなど、個々への対応が不十分だった。
- 身体の動きの意味づけが十分でなく、子どもどうしの情報交換の際、適切なアドバイスができないことがある。

↓

効果的な子どもの姿と意識の見取りから、舵を取る効果的な方法について、さらに研究を進めていきたいと考え、本主題を設定

2 研究内容と方法

(1) 研究内容

①水泳における運動や健康・安全に対する子どもの姿と意識の明確化

②子どもの姿と意識の見取りから行った舵取りの効果の検証

3 研究の実際と考察

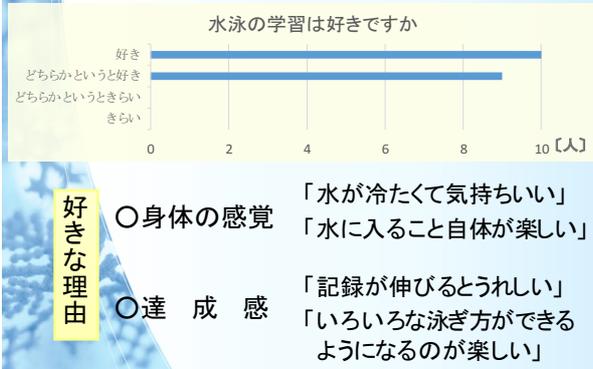
(1) 研究の実際

- ① テーマ名 スイス泳(水泳)
～ 楽に・ゆっくり・長く～
- ② 運動領域 水泳
- ③ 動きや運動のおもしろさ・楽しさ

無重量に感覚近い 距離やタイムなどの記録の向上 励まし合いながら練習

水中でバランスを取る 友達とのかかわり 新しい泳ぎに挑戦

④ 学習についての教師の意図



子どもたちの泳力



子どもたちの様子

- まじめで決められたルールはきちんと守る。
- 思いやりがあり、困っている友達には手をさしのべる。
- 課題に前向きに取り組み、最後まできちんとやりとげようとする。
- 全体的に消極的で、自分から発表することは少なく、話し合い活動は盛り上がらない。
- 半数近くが休み時間の大半を教室で過ごす。放課後の体操や水泳、陸上練習への参加者も少ない。

単元全体を通しての教師の意図

- 水泳運動の特性を楽しみながら泳ぐための技能を身につけさせたい。
- 自分の能力に合った課題を持たせ、それに応じた練習を選んだり、工夫したりできるようにする。
- 友達の動きを見てアドバイスを送ったり、励ましたりしながら、課題を解決したり、記録を達成したりする楽しさを味わわせたい。

⑤ 単元の目標

- ・運動に進んで取り組み、助け合って練習したり、水泳の心得を守って安全に気を配ったりすることができるようにする。
- ・自分の能力に応じた課題の解決の仕方や記録への挑戦の仕方を工夫できるようにする。
- ・クロールで、続けて長く泳ぐことができるようにする。

⑥ 学習計画(全13時間)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
場面 の 泳 位 置 ・ 特 徴	着 替 ・ サ ラ ン グ ・ バ タ 足	サ ラ ン グ ・ バ タ 足											
源 や っ て み る													
純 夏 さ ん 水 泳 教 室													
や っ て み る													
伏 し 浮 き ・ 連 綿 だ る ま 浮 き ・ い か だ 引 き ・ け の び ば た 足 な ど													
活 動 ① (ひろ げ る)													
泳 ぎ が ス ム ー ズ に な る よ う に 練 習 す る 場 面													
活 動 ② (ふ か め る)													
少 し が ん ん は は ば 、 で き そ う な 泳 ぎ (記 録 会 ・ レ レ ー)に 挑 戦 す る 場 面													

(1) 研究の実際

① 着衣泳を通して

ア 教師の意図

- 水中での身体の動かしにくさ、人間の身体に備わっている浮力を体感させる。
- 楽に長い時間浮くためにはリラックスすることが大切であることを理解して欲しい。

イ 見取りと舵取り

見取り(◇意識○姿)	舵取り
◇抵抗が大きくて進みづら いな。 ◇どうしたら楽に長く浮き続 けることができるのだろう。 ○浮き続けられる方法を求 めて友達といっしょに試行 錯誤している。	・長袖体操服を着用して水 中を進ませることで、水中 の抵抗を実感させる。 ・上向きになって脱力すると 人間の身体は自然に浮くこ とを意識づけする。

ウ 子どもの様子



子どもたちは冬用体操服を着用して水中を歩いたり、泳いだりした。予想を大きく上回る進みづらさに驚きつつ、水の抵抗をしっかりと感じていた。また、長く浮くための方法を考えていく過程で、上向きで脱力することが最善の方法であることにたどり着いた。

② 「やってみる」場面で

ア 教師の意図

- 伏し浮き・水中ドリブル・股くぐり・けのび・連続だるま浮きなど主運動につながる易しい運動で体を水に慣らす。
- 水中を移動するために必要な体が浮く感覚や泳いで進む時の姿勢、息つぎの技能などを身に付けられるようにする。

イ 見取りと舵取り

見取り(◇意識○姿)	舵取り
◇無重量に近い感覚がお もしろいな。 ◇浮いてくるタイミングで息 つぎをすると楽だな。 ○浮力を感じながら浮いた り沈んだりしている。 ○より進みやすくなるため の姿勢について考えながら 練習してる。	・人間の身体は、一度沈ん でも時間が経てば浮いてく ることを意識付ける。 ・遠くまで進むけのびをして いる友達の姿勢や動きを観 察させる。

ウ 子どもの様子



けのびでは、友達の姿勢や動きを水中や水上から観察し、参考にしていた。連続だるま浮きでは、身体に力が入ったり、浮かび上がるのを待ちきれず、強引に腕のかきで水上に頭を出し息つぎしていたが、しだいに浮かび上がるタイミングを見計らって呼吸できる子どもが増えた。

③ 活動①「ひろげる」場面で

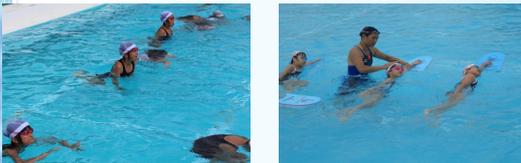
ア 教師の意図

- 課題ごとに練習の場や補助具を準備し一人一人が練習方法を選択できるようにしたい。
- 子どもどうしの関わりを大切に、ポイントを互いに教え合い、見合いながら技能を高めていく楽しさを味わわせたい。

イ 見取りと舵取り

見取り(◇意識○姿)	舵取り
◇連続だるま浮きをしていると自然に身体が前に進んで行く。 ◇課題とする姿勢や身体の動きができているかな。 ○自分の設定しためあてを達成するためにバディと確認し合いながらがんばって練習している。	・短い距離を泳いでみることで、自分なりの課題をもつことができるようにする。 ・「楽に泳ぐ」ことが距離や時間の記録を向上させることを理解させる。 ・互いに見合い、教え合って技能が高まっていくように声をかける。

ウ 子どもの様子



クラゲ足平泳ぎなどで長く泳ぐための練習をする子どもが大勢いた。「やってみよう」で行った連続だるま浮きで息つきが楽になったり、息つぎの度に身体が自然と前進したりしたためだと考えられる。また、オリンピック銅メダリストの源さんから学んだ横泳ぎの練習に励む子ども大勢いた。この横泳ぎは、連続クラゲ浮きの息つきでの頭の上下運動を、横回転へと移行させるためのよい練習となった。

④ 活動②「ふかめる」場面で

ア 教師の意図

- 活動①で取り組んだポイントを意識して少しがんばればできそうな泳ぎに挑戦させる。
- 距離・時間・ストロークや呼吸の回数などをめあてとして設定させ、繰り返し練習することで達成感を味わうことができるようにする。

イ 見取りと舵取り

見取り(◇意識○姿)	舵取り
◇達成できた。努力が報われてうれしい。 ◇達成できなかった。どうすればいいのだろう。 ◇気持ちよく泳ぐことができた方法が分かってきた。 ○バディで測定しながら練習の成果や課題について話し合っている。	・情報の共有化を図り、今後の学習に活かせるようにする。 ・効果的に協力できたバディや技量の伸びが著しい子どもとその理由を紹介し、次時への意欲付けをする。

ウ 子どもの様子



バディに見守られたり応援されたりすることで、より一層力を発揮できていたようである。めあてが達成した時にはバディと共に喜び、達成できなかった時には慰め合ったり、できなかった原因を2人で探求していた。探求することで判明した新たな課題は次時の学習課題となっていた。

単元当初、学び合いの場はほとんど機能していなかった。また、お互いのめあてや課題の内容についての情報交換さえ十分ではなかった。動きのポイントを理解することで、しだいにアドバイスし合えるようになっていった。

昨年度まで顔をつけることすらおぼつかない児童にT2の指導者がほぼつきっきりで補助していたが、鼻をつまんだまま泳ぐ状態が続いていた。しかし、特定のバディの際、いきなり両手を前に出して泳ぎはじめた。授業後、バディの児童に話を聞いたが、アドバイスや支援のための言葉は、普段指導者がしているものと変わりなかった。子ども同士による支援の特別な力を実感した。

⑦ ICT機器の活用

ア 教師の意図

○めあてを達成するために必要な動きのポイントをよく理解させたり、子どもどうしの学び合いの場での話し合いを活性化させたりしたい。

○実際に見るより運動局面や身体部分を絞って見えるモニターの映像を利用して、技能の向上を図りたい。

イ 見取りと舵取り

見取り(◇意識○姿)	舵取り
◇「楽に・ゆっくり・長く」泳ぐためにはどんなことに気をつけ、どんな身体の動かし方をすればいいのだろう。 ◇取り組んでいる課題はどれくらい達成できているかな。	・各自の状況に合わせてポイントが分かるよう一人一人に声をかける。

ウ 子どもの様子



指導用教材の動画や自分の泳いでいる動画を視聴することで、子どもたちは目指すべき泳ぎをイメージし、その時の自分の技能に応じためあてや練習方法を見つけることができるようになった。

4 研究のまとめと今後の考察

研究のまとめ

○授業前に行った学習カードの記入や指導用教材である動画の視聴は舵取りの内容やタイミングを予測したり、子ども達の意識を方向付けしたりするうえで有効であった。

○こうした資料の活用は、子ども達が身体の動きを意味づけしたり、バディ間の技能に関する学び合いを活性化したりするうえでも大きな役割を果たした。

今後の考察

○活動①「ひろげる」場面で、子ども達どうしの学び合いが十分機能しなかったことである。

○連続だるま浮きで、その時点では技能を習得するものの、次時になると再び浮き上がりを待つことができず技能が定着しなかった。

○技能に応じためあてに修正するよう舵取りを行ったが十分な説得力がなく、めあてを達成するに至らなかった。

